

平成 27 年 2 月 23 日

公益財団法人日本容器包装リサイクル協会

プラスチック容器事業部

分別基準適合物の引き取り実施基準

再生処理事業者及び運搬事業者は、以下に記した分別基準適合物の引き取り基準等に従い、保管施設からプラスチック製容器包装に係る分別基準適合物について引取作業を実施することになりますので、以下内容を十分にご確認ください。

- ① 再生処理事業者（※再生処理事業者及び運搬事業者）は、保管施設におけるプラスチック製容器包装の引取作業及びプラスチック製容器包装再商品化実施契約書第 10 条に定める再生処理施設までの運搬（当該引取作業及び運搬業務を併せて、「引取業務」という。）を行う。
- ② 再生処理事業者（※運搬事業者）は、引取業務の実施日時等の連絡事項及びその方法について、保管施設を管轄する市町村と事前に協議し、連絡を受けた後、再商品化に係る実施基準に定める要領にしたがい、速やかに引取業務を実施するものとする。
- ③ 再生処理事業者（※運搬事業者）が行う引き取りは、原則として 10 トン車 1 台程度を単位とする。但し、再生処理事業者（※運搬事業者）は、市町村の年間の分別収集量が 10 トン車 1 台程度に満たない場合においても、年間最低 1 回の引き取りを行う。
- ④ 再生処理事業者（※再生処理事業者及び運搬事業者）は、市町村と事前に協議した方法に則り、引き取り数量を検量し、その検量票を保存する。
- ⑤ 再生処理事業者（※運搬事業者）は、引取業務が著しく困難であると認められる場合には、遅滞なくその理由を添えて公益財団法人日本容器包装リサイクル協会及び市町村に連絡する。
- ⑥ 再生処理事業者は、委託数量の引き取りについて、市町村に直接その数量変更又は中途辞退、解除等を申出してはならない。
- ⑦ 再生処理事業者（※運搬事業者）は、プラスチック製容器包装の引取業務及び保管を他の再商品化事業者と共同して行なってはならない。
- ⑧ 1 つの保管施設を複数の事業者が落札した場合の各事業者の引き取り数量は、実際の保管施設で引き取るべき総量を各事業者の落札量により比例配分した数量とする。

注意) 市町村の指定保管施設で使用する消耗品、例えばラップフィルム、バンド等を再生処理事業者（※再生処理事業者及び運搬事業者）から無償提供することは厳禁です。

市町村では、法令に従い、プラスチック製容器包装を「圧縮」（ベール化）しますが、この「圧縮」とは、「市町村からの引き取り品質ガイドライン」に記載されているように、『圧縮され、結束又はこん包等により形態の維持、小容器類の飛散対策が図られていること』であり、市町村の役割です。

当協会では、市町村からの分別基準適合物の引き取りおよび再商品化に関し、市町村と当協会との取り決めを、「分別基準適合物の引き取りおよび再商品化」の概要として取りまとめております。以降に添付する資料 13 参考資料①～③は、分別基準適合物の引き取りおよび再商品化業務に関する取り決めについて定めたものです。再商品化事業者各位におかれましては、内容を確認のうえ、分別基準適合物の引き取りおよび再商品化を実施してください。

平成 27 年 2 月 23 日
公益財団法人日本容器包装リサイクル協会
(改定日：平成 26 年 10 月 22 日)

「分別基準適合物の引き取りおよび再商品化」の概要（平成 27 年度版）

1. 契約および支払い方法

- 7) 分別基準適合物の引き取りおよび再商品化についての市町村と協会の契約は、別途定める標準書式により、毎年度の初めに取り交わすこととします。
(特定事業者負担分に関する「業務実施覚え書き」および市町村負担分^注)に関する「業務実施契約書」をそれぞれ別個に締結いたします。)
- 4) 市町村負担分の引き取りおよび再商品化をお申し込みいただく場合の市町村負担分の費用については、主務省が示す市町村負担比率にしたがい、引き取り実績に応じて再商品化実施委託料金をいただきます。ただし、主務省が示す市町村の負担割合が改定された場合には、上記の比率は見直しが行われます。
- 4) 再商品化実施委託料金の支払いは、四半期毎です。支払い請求書を受領された後 30 日以内にお振り込みいただきます。(例) 4～6 月引き取り分 → 7 月請求 → 30 日以内に振り込み

注) 特定事業者負担分と市町村負担分について

小規模事業者については再商品化義務者ではなく、小規模事業者が排出する容器や包装については市町村が処理責任を負います。この部分を当協会に委託して再商品化を行う場合には、再商品化実施委託料金をいただきます。これを市町村負担分と呼びます。特定事業者が再商品化の責任を負う率は、毎年国の調査に基づき、特定事業者責任比率として公表されますが、1 からその比率を減じたものが小規模事業者の比率となり、市町村が責任を負う率となります。これを市町村負担比率と呼びます。市町村は、市町村負担分について、協会に引き取りを委託するか、しないかを自由に決めることができます。

2. 市町村への資金拠出

- 7) 容器包装リサイクル法第 10 条の 2 及び主務省令に基づき算定される市町村への拠出金（以下「再商品化合理化拠出金」という。）を、「業務実施覚え書き」の記載内容に則り、対象となる市町村（一部事務組合及び広域連合を含む。）に拠出します。

3. 引き取りを行う量

- 7) 正式申込みは、市町村との契約や特定事業者等の再商品化実施委託料金算定の基礎になるばかりでなく、それを前提として再商品化事業者の入札選定が行われ、再商品化事業者の年間事業内容が決定されますので、施設の故障または市町村合併に伴う収集体制の変更等により、正式申込み量と実際の引き渡し量に大幅な乖離が見込まれる場合には、速やかに書面にてその理由と見込み量を協会宛にお知らせ願います。その連絡をふまえ、必要に応じて市町村と協会との間で協議を行った上で、協会としての対応を判断いたします。
- 4) 市町村が7)の連絡を怠った場合、または申込みの撤回があった場合には、協会は次年度の引

き取りをお断りすることができるものとします。但し、その原因が独自処理や第三者への引き渡しによる場合には、協会は次年度及び次々年度の引き取りをお断りすることができるものとします。契約書調印後に関しましても、同様の理由による契約違反に対しては同じ対応とさせていただきます。

中央環境審議会廃棄物・リサイクル部会容器包装の3R推進に関する小委員会
(第6回) 産業構造審議会環境部会廃棄物・リサイクル小委員会容器包装リサイクルWG (第43回) 合同会合資料 (抜粋)

(想定量について)

- ・ 想定量は、3年ごとに策定される市町村分別収集計画に定められた特定分別基準適合物の量から独自処理予定量を控除した量を基礎としつつ、上記(※)の事情を勘案する必要がある場合には、これに当該変動分として見込まれる量を反映させた数量を引渡しを行うと見込む量とし、具体的には、この量を再商品化実施年度前(前年度)に、各市町村から指定法人又は認定特定事業者へ引渡しの申込みを行う量とすることとする。

(※) 市町村分別収集計画の策定後、分別収集の実施地区・時期・対象品目及び独自処理量に変更される場合には、これらの事情による引渡量的変動は再商品化の合理化に寄与するものとは言えないことから、あらかじめ当該変動分を引渡しを行うと見込む量に反映させる必要がある。

- ㊦) 市町村負担分の再商品化を協会に委託しないで特定事業者負担分の正当であるべき量を超えて協会に引き渡した場合には、当該事実が確認された年度の翌年度の引き取りをお断りすることができるものとします。
- ㊧) 全国的規模で再商品化が可能な施設能力として、「再商品化見込み量」が告示されています。正式申込み量の総量が「再商品化見込み量」を超えるときには、個々の市町村の分別収集計画量に基づき調整を行うことがあります。
- ㊨) 協会は、各市町村において分別収集を実施するにあたり、全国的な計画量と実績量を勘案して対応を行っていただくために、四半期毎に引き取り実績総量(全国)の情報を提供します。
- ㊩) 全国的な引き取り実績数量が、「再商品化見込み量」を超えた場合には、協会は引き取るできません。その場合には、超過分について、市町村において保管を含めて対応をお願いいたします。
- ㊪) また、市町村からの引き渡し総量の実績が、『再商品化義務総量』と『特定事業者からの当該年度受託総量』の低い方の値に、小規模事業者分としての市町村からの再商品化受託量総量を加えた量を上回ることが見込まれる場合には、協議させていただきます。

4. 再商品化実施委託単価

平成 27 年度の「再商品化実施委託単価」は以下のとおりです。なお、27 年度の単価には消費税及び地方消費税は含まれておりません。(単価は 27 年度以降税抜表示となります)

		平成 27 年度		ご参考：平成 26 年度	
		再商品化実施委託単価 (税抜)		再商品化実施委託単価 (税込)	
		(単位：円／t)	(単位：円／kg)	(単位：円／t)	(単位：円／kg)
ガラスびん	無色	4,400	4.4	4,400	4.4
	茶色	5,800	5.8	6,100	6.1
	その他の色	9,400	9.4	8,700	8.7
PET ボトル		3,300	3.3	1,500	1.5
紙製容器包装		13,000	13.0	14,000	14.0
プラスチック製容器包装		47,000	47.0	57,000	57.0

5. 特定事業者責任比率および市町村負担比率

平成 27 年度の特定事業者責任比率および市町村負担比率は以下のとおりです。

		平成 27 年度		ご参考：平成 26 年度	
		特定事業者責任比率	市町村負担比率	特定事業者責任比率	市町村負担比率
		(単位：%)	(単位：%)	(単位：%)	(単位：%)
ガラスびん	無色	97	3	97	3
	茶色	85	15	85	15
	その他の色	90	10	91	9
PET ボトル		100	0	100	0
紙製容器包装		97	3	97	3
プラスチック製容器包装		99	1	99	1

6. 引き取り条件 (4 素材共通事項)

【分別基準の運用】

- ア) 法律では、同法に規定する分別基準を満たす必要があるとされていますが、実際の運用としては、協会の「引き取り品質ガイドライン」を基準として、分別収集を実施していただきます。
- イ) 「引き取り品質ガイドライン」を満たしていない物については、再商品化施設に支障をきたしたり、再選別コストがかかったりする可能性があるため、速やかに品質改善していただくこととなります。
- ウ) 品質改善について、本来は、市町村および協会にて協議のうえ決定すべきですが、業務を効率良く進めるために、日常的には、市町村と再商品化事業者の間で調整をしていただきます。
- エ) そのうえで、調整が困難な場合のみ、市町村と協会の間で協議を行います。その結果として、品質改善が行われない場合には、引き取りをお断りすることがあります。

【安全管理責任】

- オ) 市町村には、再商品化事業者における安全、衛生上の事故を防止するために、危険物や感染性廃棄物が混入しないよう努めていただきます。

【引き取り単位および頻度】

- カ) 分別基準適合物に定められている量は 10 トン車 1 台程度ですので、指定の保管施設に保管された分別基準適合物は、10 トン車 1 台程度を引き取り単位として、再商品化事業者が引き取ります。(ただし、PET ボトルの場合の積載トン数は、5.5~6 トン、その他プラスチック

製容器包装の場合は6トン前後、白色の発泡スチロール製食品用トレイ（以下「白色トレイ」という）のみの場合は、0.3トン前後となります。）

- キ) なお、日常的な引き取りについて、市町村からの引き取り申し込みがあつてから、2週間以内を目途に、両者間の協議に基づいて取り決めていただきます。
- ク) ただし、年間の分別収集量が10トン車1台程度に満たない場合においても、協会は、原則として、年1回引き取りを行うよう努力します。
- ケ) 協会は、非効率的な輸送を避けるため、市町村から引き取りの申し込みを受ける際に、「分別基準適合物の引き渡し申込書」により、引き渡し希望頻度を提示して頂き、可能な限り市町村の希望に添った対応を実施します。
- コ) 離島においても、通常の場合と同様に、本欄に記載したとおり引き取りを行います。

【指定保管施設】

- カ) 分別基準適合物の保管および受け渡し施設は、本法律に則り主務大臣より指定を受けた指定保管施設であることが必要です。詳細については、環境省から通知される文書の保管施設指定に関する部分を参照してください。

【指定保管場所での積み込み責任】

- シ) 協会は、市町村から引き取り申し込みを受ける際に「分別基準適合物の引き渡し申込書」により、積み込み用機材の有無の確認を行い、それに基づいて再商品化事業者の入札を受け、選定を行います。
- ス) しかしながら、当該容器包装を10トン車に積み込むための積み込み用機材の整備、および積み込み作業について、市町村と再商品化事業者が協力し合い、両者間の協議に基づいて取り決めていただきます。

【引き取り量の確認】

- セ) 協会は、市町村負担分を実績に応じてお支払いいただくために、また再商品化事業者へ再商品化実施費用を毎月実績に応じて支払うために、市町村ならびに再商品化事業者双方からの月次報告を受けて実績を把握します。
- ソ) 市町村が協会に対して実態と異なる引き渡し数量を報告した場合、協会は市町村との契約を解除し当該年度の引き取りを停止するとともに、翌年度の引き取りをお断りする場合があります。

【残さの処理】

- タ) 分別基準適合物には、何らかの不純物が混入し、残さが排出されることが見込まれます。協会が引き取った後の残さの処理については、日常的には、再商品化事業者が処理を行います。市町村は、残さが発生しないように「引き取り品質ガイドライン」を基準として、分別収集をお願いいたします。

7. ガラスびんの引き取り

- ア) ガラスびんに関しては、法律では、「無色、茶色、その他の色のガラスびんの合計が10トン車1台程度」である状態を、分別基準適合物として規定されています。しかしながら、現状、多くの場合、無色、茶色、その他の色のガラスびんは各々異なるトラックで回収を行っています。
- イ) したがって、非効率的な輸送を避けるために、市町村には、今後もできる限り、色毎に10トン車1台程度単位での搬出ができるように、ご協力をお願いいたします。

8. PETボトルの引き取り

【PETボトルの「丸ボトル」の取扱い】

- ア) 「丸ボトル」は、法律で規定している「圧縮」・「こん包」を行っていないものであるため、分別基準適合物とは見なされません。
- イ) しかし、市町村における分別収集への取り組みの実情を考慮すると、協会が法律上の解釈をもって一切の対応を否定することは、大きな社会的混乱を招きかねない状況にあります。
- ウ) 一方で、「丸ボトル」については、「輸送の効率性が損なわれる」(注)等の事情が存在します。
(注) 約7倍の容積となり、約7倍の輸送コストがかかる。
- エ) 以上の事情から、協会は現実的な対応として当該「丸ボトル」を、減容機を導入するまで輸送コストを全額市町村負担とすることを条件として引き取ります。なお、圧縮のための減容機の導入は速やかにお願いたします。

9. 紙製容器包装の保管および引き取り

【容器包装と非容器包装を混合収集する市町村からの引き取り】

- ア) 市町村が紙製容器包装を雑紙に含めて収集している等、容器包装と非容器包装を混合収集している場合には、収集後、市町村により容器包装のみ選別することが必要です。選別していない収集物は、分別基準適合物とは見なされないため、引き取ることはできません。

【指定保管場所の民間委託】

- イ) 分別収集品を中間処理(分別基準適合物とする為の区分け、圧縮等)し、指定保管場所に保管するまでは市町村の役割です。民間事業者のヤードを指定保管場所とする場合、事業者の本制度における役割分担を十分説明の上、市町村からの委託業務の範囲を明確にした委託契約を締結してください。
- ウ) 再商品化事業者は協会が入札により選定しますので、市町村から指定保管場所を受託した事業者が選定されるとは限りません。特に、従来から古紙リサイクルを連携して実施してきた(新聞・雑誌等の圧縮保管を委託している等)古紙問屋へ指定保管場所の委託を行う場合など、説明不足による誤解が生じがちですのでご注意ください。

【紙製容器包装の引き取り形態】

- エ) 分別基準では、保管形態を「結束され、又は圧縮されていること」と定めておりますが、収集・保管量が比較的少なく、保管施設の設備面等から結束・圧縮が困難な場合にはフレコンでの引き取りも可能といたします。ただし、フレコンの準備は市町村でお願いいたします。

10. プラスチック製容器包装の保管および引き取り

【ごみ袋の破袋】

- ア) 「引き取り品質ガイドライン」を満たすためには、消費者が排出したごみ袋を破袋し、中の異物を除去し、さらに容器包装リサイクル法の対象物ではない収集袋(指定収集袋、市販のごみ袋)が除かれている必要があります。ごみ袋の破袋がされていないベールは、引き取ることはできません。

【容器包装と非容器包装を混合収集する市町村からの引き取り】

- イ) 市町村が容器包装と非容器包装を混合収集している場合には、収集後、市町村により容器包装のみ選別することが必要です。選別していない収集物は、分別基準適合物とは見なされないため、引き取ることはできません。

【1 保管施設から複数事業者が引き取る場合】

㌾) 1つの保管施設を複数の事業者が落札した場合は、実際の保管施設で引き取るべき総量を各事業者の落札量により比例配分して引き取ることにします。

【「粉砕品・溶融品」の取扱い】

㌾) 「粉砕・溶融」は、法律で規定している「圧縮」には該当しないため、「粉砕品・溶融品」は分別基準適合物とは見なされませんので、引き取りを行いません。

【「白色トレイ」の取扱い】

㌾) 「白色トレイ」は、原則として圧縮を行わず、袋詰めした形で引き取ります。引き取り後の作業上の負荷がかからないよう、できる限り大きな袋に詰め、また、二重袋にならないよう大袋の中の小袋は除去していただきますようお願いいたします。

㌾) 白色トレイの材料リサイクルを行うためには、「白色トレイ」以外のトレイ（例えば、色柄付きトレイ等）が混入しないよう分別基準を遵守していただきますようお願いいたします。

㌾) 「プラスチック製容器包装」に関して、「その他プラスチック製容器包装と白色トレイの合計が10トン車1台程度」である状態を、分別基準適合物として規定されています。しかし、白色トレイと、白色トレイを含まないその他プラスチック製容器包装の双方を分別収集する場合には、白色トレイとその他プラスチック製容器包装はそれぞれ個別に入札が行われるため、異なる再商品化事業者が引き取り再生処理を行うこととなります。したがって、再商品化事業者が円滑に引き取りを行うことができるよう保管の際にはそれぞれを区別、整理しておくとともに、非効率的な輸送を避けるため各々10トン車1台程度単位で搬出できるようお願いいたします。

㌾) 白色トレイの引き取りにあたり、再商品化事業者によっては、車載型減容車で通常より時間をかけて引き取りを行うことがありますので、ご了承ください。

【「白色トレイ」の材料リサイクル以外の手法による再商品化】

㌾) 白色トレイについて、材料リサイクルの再商品化能力が分別収集量を下回る等、白色トレイが材料リサイクルの事業者に落札されなかった場合には、材料リサイクル以外の手法により再商品化されることがあります。この場合も異なる再商品化事業者が再生処理を行うことができますので、保管の際にはそれぞれ区別・整理しておくとともに、非効率的な輸送を避けるため各々10トン車1台程度単位で搬出できるようにお願いいたします。

㌾) 白色トレイが材料リサイクル以外の手法で再商品化されるときは、「その他プラスチック製容器包装」の分別基準と同様、「圧縮」・「こん包」を行った方が、輸送上効率的です。この場合、白色トレイとその他プラスチック製容器包装を別々に分別収集する市町村では、白色トレイについても「圧縮」・「こん包」し保管するようお願いいたします。

㌾) また、同様の理由から、白色トレイのみ分別収集を行う市町村についても、圧縮機を利用できる場合には、白色トレイも「圧縮」・「こん包」していただきますようお願いいたします。

㌾) なお、協会への引き渡し申込みの際に、白色トレイの圧縮・こん包の可否について伺います。「可」と回答をいただいた市町村が、材料リサイクル事業者以外の事業者により落札された場合には、圧縮・こん包するようお願いいたします。

11. 本システムの運用に問題が生じた場合の調整

㌾) 本システムの運用に問題が生じた場合は、本来は、市町村および協会と協議のうえ決定すべきですが、業務を効率化するために、日常的には、市町村と再商品化事業者の間で調整していただき、調整が困難な場合のみ、協会が調整を行うことといたします。さらに、調整が困難な場合には、「容器包装リサイクル法第35条」の規定に則り、主務大臣が必要な措置を講ずることとなります。

以上

平成 27 年 2 月 23 日
 公益財団法人日本容器包装リサイクル協会
 (改定日：平成 24 年 2 月 24 日)

平成 27 年度市町村からの引き取り品質ガイドライン

このガイドラインは、再商品化事業者が分別基準適合物の再生処理にあたり、市町村から引き取る際の品質の目標を示します。平成 27 年度については、下記の基準を用います。

プラスチック製容器包装

(1) プラスチック製容器包装

1) 引き取り形態

分別基準にあるとおり、「圧縮」されているもの（以下、ベールという）です。
 「圧縮」とは、単品で圧縮されていることではなく、保管、運搬時の効率性を確保する観点から、一般的な圧縮機（ペーラー等）で圧縮され、結束又はこん包等により形態の維持、小容器類の飛散対策が図られていることをいいます。

2) ベールに求められる性状

- ・安全性：運搬や保管・移動作業中に荷崩れがないこと。
 なお、ベールの安定性のためには、ボトル類にあつては蓋を外して圧縮を行う方が合理的です。
- ・衛生性：ベールから臭気の発生がないこと。
 腐敗性有機物等が付着、混入していないこと。
- ・バラケ性：再生処理施設での解体が容易であること（かさ比重 0.25～0.35t/m³程度を目安としてください。）
- ・収集袋の破袋：分別収集に利用される収集袋を破袋し、収集袋から収集物を抜き出し異物を取り除き、また容器包装リサイクル法の対象物ではない収集袋(指定収集袋、市販のごみ袋)が除かれていること。

3) ベールの寸法、重量、結束材

ベールの寸法はトラックへの積載効率や標準パレット（1100mm×1100mm角）への適合性から、次の3種類の寸法を推奨します。

寸法 (mm) *	重量 (kg)	結束材
①600×400×300	18～20	PP、PETバンドまたはフィルム併用
②600×400×600	36～50	同上
③1000×1000×1000	250～350	同上

* 寸法の 600×400mm、1000×1000mmはプレス金型の寸法を示します。

実際のベールの寸法はこれより少し大きくなります。

* 「推奨」ですから、ローリングタイプのベールを排除するものではありません。

* 番線およびスチールバンドは解梱作業の安全上好ましくありません。

4) ベールの品質基準

再商品化を効果的、効率的に行うためには、原料となるベールの品質が良くなければなりません。

項目	基準	備考
分別基準適合物である プラスチック製容器包装	90%以上(重量比)	
【異物等】 ① 汚れの付着したプラスチック製容器包装	混入していないこと	食品残渣等(*1)が付着して汚れた物や生ごみ。 土砂や水分(雫が垂れている)で汚れた物
② 指定収集袋および市販のごみ袋	混入していないこと	市町村指定の収集袋、市販のごみ袋
③ 容り法でPETボトルに分類されるPETボトル	混入していないこと	
④ 他素材の容器包装	混入していないこと	金属、ガラス、紙製等の容器包装
⑤ 容器包装以外のプラスチック製品	混入していないこと	バケツ、洗面器、カセットテープ、おもちゃ等の容器包装以外のプラスチック製品
⑥ 事業系のプラスチック製容器包装	混入していないこと	業務用容器、結束バンド等
⑦ 上記以外の異物	混入していないこと	容器以外のガラス、金属、布、陶磁器、土砂、食物残渣、生ごみ、木屑、紙、皮、ゴム等の異物。
⑧ 禁忌品	混入していないこと	医療系廃棄物(*2) 危険品(*3)

(*1) 分別基準の運用方針では食品残渣等有機物の取り扱いとして「保管時の衛生対策から、食品残渣等の付着がないよう洗浄及び拭き取る等で容易に付着物を除去できるものについては、付着物を除去した後に排出するとともに、付着物により汚れているものについては排出しないよう指導されたい。」とあります。

(*2) 医療系廃棄物とは、感染症の恐れがある、注射針、注射器、点滴セットのチューブ・針(輸液パック部分は除く)等。

(*3) 危険品とは、ライター、ガスボンベ、スプレー缶、乾電池等発火の危険性があるもの、および刃物、カミソリ、ガラスの破片等怪我をする危険性があるもの。

(2) 白色の発泡スチロール製食品用トレイ

1) 引き取り形態

- ・原則として圧縮を行わず、透明ポリエチレン製袋に回収トレイを入れ密封こん包されているものです。

2) 密封こん包に求められる性状

- ・衛生性：こん包はしっかり密封されていること。
透明ポリエチレン製の袋であって、腐敗性のものや土砂などで汚れていないこと。

3) 透明ポリエチレン製袋の寸法

透明ポリエチレン製袋の寸法はトラックへの積載効率や、作業性を考え、次の2種類の寸法を推奨します。

寸法(mm)	重量 (k g)	フィルムの厚さ
①1500×1200	2.5～3.0	25 μ
②1200×1000	1.7～2.0	25 μ

4) こん包の品質基準

再商品化を効果的、効率的に行なうためには、原料となるベールの品質が良くなければなりません。

項目	基準	備考
分別基準適合物である白色の発泡スチロール製食品用トレイ	90%以上（重量比）	洗浄・乾燥済みの両面とも白色のトレイに限る
【異物等】 ① 汚れが付着したもの	混入していないこと	食品残渣等が付着して汚れた物や生ごみ。土砂や水分（雫が垂れている）で汚れた物
② 非白色発泡スチロール製トレイ	混入していないこと	色物、柄物トレイ
③ 発泡スチロール製以外のトレイ	混入していないこと	PE、PP、PET、非発泡PS
④ トレイ以外のプラスチック製容器包装	混入していないこと	カップ麺、緩衝材
⑤ 上記以外の異物	混入していないこと	容器以外のガラス、金属、布、陶磁器、土砂、食物残渣、生ごみ、木屑、紙、皮、ゴム等の異物
⑥ 水分	密封こん包内部に水滴が発生しないこと	洗浄、乾燥されているトレイを分別収集することにより対応する

以上

平成 27 年 2 月 23 日
公益財団法人日本容器包装リサイクル協会
(改定日：平成 18 年 12 月 1 日)

分別基準について

(平成 18 年環境省令第 35 号、18 年 12 月 1 日改正)

プラスチック製容器包装

主としてプラスチック製の容器包装（飲料、しょうゆその他環境大臣が定める商品を充てんするためのポリエチレンテレフタレート製の容器を除く。）に係る物

1. 原則として最大積載量が一万キログラムの自動車に積載することができる最大の容量に相当する程度の分量の物が収集されていること。
2. 原材料として主として他の素材を利用した容器包装が混入していないこと。
3. 容器包装以外の物が付着し、又は、混入していないこと。
4. 圧縮されていること。ただし、白色の発泡スチロール製食品用トレイのみの場合にあつては、この限りでない。
5. 飲料、しょうゆその他環境大臣が定める商品を充てんするためのポリエチレンテレフタレート製の容器が混入していないこと。
6. プラスチック製のふた以外のふたが除去されていること。
7. 白色の発泡スチロール製食品用トレイのみの場合にあつては、洗浄され、乾燥されていること。

以上